長野県総合教育センター通信

しののめ

2017/03/10
第95号
（平成29年03月号）

〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4
TEL (0263)53-8802 FAX (0263)51-1290 E-mail：*kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp*

目　次

所長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
センター研究発表会ありがとうございました・・・・・・・2
総合教育センターの重点・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

「全員に を！」

長野県総合教育センター所長　三浦　章

センター研究発表会には，多くの皆様にご来場いただき，ありがとうございました。グーグル米国本社元副社長の村上憲郎氏をお招きしての講演会は大好評でした。感謝申し上げます。（講師詳細はグーグルでググってみて下さい）

「グローバル社会を生き抜いて行ける子どもを育てるには　～教育現場でできること，すべきこと～」と題して，「世界の公用語」としての英語力の必要性と具体的な養い方をお聴きすることができました。「でも，やっぱり，最後は『パトスの論理』」と，熱意や感動が最も大切であると締めくくられました。

小中学校の次期学習指導要領の改定案が公表され，2020年度からいよいよ小学校３・４年生で外国語活動が，５・６年生で英語学習がスタートします。テストは学習へのモチベーションにはなり得ますが，その結果が悪ければ，逆効果になることも我々教師は日常の体験からよく承知をしています。英語学習への学習意欲を喪失させない取組が強く求められます。そのために，「教育現場でやってはいけないこと」は，テスト結果で悪い評価をすることです。小学校での外国語活動及び英語学習での評価は，「全員に（たいへんよくできました）を！」が大前提であると思います。そうすれば，中学校へ進学後も英語学習を続けることでしょう。

本年度，研修講座をはじめとして，総合教育センターの各事業にご理解・ご協力をいただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げるとともに，来年度も引き続き，多くの皆様に当センターをご活用いただけますようお願い申し上げ，１年間の御礼の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

長野県
総合教育センター

研究発表会　ありがとうございました。

本年度の長野県総合教育センター研究発表会では，テーマを「多様化する教育現場の課題に直面している教員を支援する研究調査」として開催しました。

おかげさまで，県内外から２００名を超える方々にご参加いただきました。

午前の部では，「グローバル社会で生き抜いて行ける子どもを育てるには」と題して，Google米国本社元副社長の村上憲郎氏の講演をいただきました。

午後の部では，６つの分科会に分かれてプロジェクト研究の成果を発信するとともに，協議や演習を取り入れた体験型の分科会を実施しました。

参加者からの感想（抜粋）

＜講演会＞

○学校社会の中だけで教師が考えているレベルの国際化と、現在社会の中で進行しているグローバル化のギャップに衝撃を受けた。
○英語は自転車の運転と同じ問題解決するためのツールとして不可欠という現実を知った。
○子どもたちが自分のワクワク感をかき立てられるような授業を構想していく必要を改めて感じた。
○特に、「球体の中心はすべて」というお話では、今までの自分の見方や考え方が一変したように思います。
○これからの社会で生きていく、社会を担っていく子どもたちを育てる立場の人間である以上、このような機会を得ていかねばと思いました。
○この講演を聴くことができて、本当に良かったと心から思います。今まで自分の中の眠っていた部分を呼び覚ましていただいた気がします。

＜分科会＞（A～Fのそれぞれの様子は次ページ）

（A）同僚性の深まりは、職員の負担感軽減につながると実感しています。大切なことだと改めて感じました。
（B）生の声（事例）の説得力がありました。グループに小・中・高・特支の先生方がいて、それぞれ違う立場からのお話が聞け勉強になりました。
（C）学習問題、学習課題の据え方から、主体的な追究に至るまで、実践を基に紹介していただき参考になる点が多くありました。
（D）個を大切にするための教師の姿勢について、改めて考えさせられました。「心」が大切であることを学びました。
（E）アクティブ・ラーニングに決まった型はない」を頭に入れ、子どもに合わせた形を考えていきたいと思います。
（F）プリント（デジタル）の作成の仕方を教えていただきました。それほど難しくなかったので、私にもできそうだなと思いました。

他にもたくさんのご感想をいただきました。
ありがとうございました。

長野県総合教育センター
研究発表会

分科会の様子

A 『職場の同僚性を高め若手の成長を支える職場づくり』

この分科会は，高等学校初任者研修のアンケート記述から，教師間の同僚性を高め，同僚と学び合い，若手の成長を支える職場づくりについての方策を発表しました。

後半のワークショップは「職場のつながりを見つめ直す」と題して，グループワークが行われ，活発な意見交換が行われました。

B 『不登校への対応のあり方を考える』

不登校(長期欠席) は，近年本県の大きな教育課題として捉えられています。各学校の不登校対策をより一層充実させるためには，多様な「不登校への対応のあり方」を共有することが有効ではないかと考えました。そこで県内の学校や自治体の取組をまとめて発表し，情報交換をしました。

C 『学力向上につながる授業づくり』

この分科会は，学力向上のために授業改善に取り組みたいが，どのようにしたらよいかわからない，より良い授業づくりのきっかけが欲しいという声に応えようと行われました。

「学習問題」「学習課題」「友との協働」「体験を通した学び」「家庭学習」という観点から研究成果を発表し，後半は「友との協働」を体験する演習を行いました。

D 『個に居場所がある学級づくり』

この分科会は，教師がどのような意図でどのような支援をすることが，学級の中で個の居場所が位置付き，自己有用感をもって生活する姿につながるかについて研究した成果を発表しました。

後半は「発表をきっかけにして，学級づくりでできそうなこと」について，まず個人で記述し，その後グループ討議をして全体で共有しました。

E 『アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善に向けて』

この分科会は，アクティブ・ラーニングの視点について理解を深め，具体的な授業改善のヒントをつかむことを目指して行われました。

後半は高等学校での授業の映像を視聴して「主体的・対話的で深い学び」は生徒のどの姿に表れているか」「それらの姿を実現させた教師の手立てはどのようなものか」に着目して，提案を行う演習を行いました。

F 『ICTの効果的な活用と反転学習の取組について』

この分科会は，高等学校のモデル校の活用事例から「ＩＣＴ教育を推進するための支援の在り方」と「ＣＭＳを用いた反転学習の有用性」について研究した内容を発表しました。

後半は学習プリントをデジタル教材化する演習を行いました。ワープロで作られた既存の学習プリントが簡単にデジタル教材になることを体験していただきました。

平成29年度 総合教育センター事業の重点

ＥＴＣ（教育をタイムリーにチェンジする）

研修事業

「主体的・対話的で深い学びへつなぐ研修講座」を目指します

◆教員の研修講座での深い学びを，子どもの深い学びへつなげます
◆教師力・授業力の向上を図り，学校力・学力の向上へつなげます
◆演習・実習・少人数協議におけるアウトプットで深い学びへつなげます
◆特別支援教育の視点を生かした授業のユニバーサルデザイン化を提案します
◆喫緊の教育課題に対応する豊富な研修講座群

カリキュラム・マネジメント研修講座開設

◆センター主催講座 11/24　◆信州大学連携講座 10/2，5，6　◆上越教育大学共催講座 6/8

学校のニーズに応える希望研修講座

新設講座多数開設

◆学校力・学力の向上を目指す研修講座群の充実
◆郷土,信州から学び・伝承する講座に「信州体験マーク」
◆参加しやすい土曜講座の開講（6/24，11/25）

信州

土曜8講座

帰校後のICT活用をサポート

◆帰校後のＩＣＴの活用につながる講座に「ＩＣＴ活用マーク」
◆すぐに使えるものから，最新の活用まで体験から実感・納得へ

ICT活用

ライフステージに即した教師の深い学びにつながる指定研修

◆自らの資質能力の向上に向け，教師が主体的に学ぶ研修
◆教員相互の協働性を高め，考えを広げ深める研修

グローバル時代への対応

◆国際理解教育の推進
◆関係機関との連携

学校支援事業

センターが学校をサポート

研修資料をＨＰからダウンロード

◆校内研修支援
・Ｗｅｂコンテンツで校内研修をサポート
・専門主事が出向き学校の課題に対応
◆学校訪問支援
・教科指導の課題や授業改善に対応
・教育事務所と連携し,要請に対応

研究調査事業

喫緊の課題・時代を先取りする研究

◆プロジェクト研究の推進
・課題に対応した提案性のある研究
・センター研究発表会での成果発信

2018年 2/16(金) 発表会

◆全国の教育機関との連携強化
・県外の教育機関との研究の連携
・所長協技術・家庭科分科会長野大会（H30）の準備

教育情報事業

学校で使える教育情報を配信

長野県総合教育センター 検索

◆ホームページの充実と利便性アップ
◆「学びの広場」にて様々な問題や学力向上に関わる情報を掲載
◆センター通信「しののめ」にて,最新情報や校内研修で使える資料を配信

教育相談事業

学校と連携した教育相談を推進

◆子どもの健やかな成長と発達を願う教育相談
・・・児童生徒,保護者,教職員の相談に対応
◆学校の課題や授業づくりについての教育相談
・・・教職員の相談に対応

電話・来所等で対応